

# 平成22年度一般会計決算の特徴

## 1 歳入総額、歳出総額とも3年ぶりに前年度を下回った。 実質収支は48億円の黒字になった。

### <歳入>

- 個人所得の減少により個人県民税を中心に県税収入が減少
- 国の経済危機対策に伴い前年度に増加した国庫支出金が減少
- 地方交付税の振替である臨時財政対策債の発行が増加したが、県債全体の発行は減少
- 総額で657億円(3.7%)減少

### <歳出>

- 平成21年度の国の経済危機対策に伴う事業が本格化
- 国の経済危機対策に伴い前年度に増加した基金積立てが減少
- 総額で665億円(3.8%)減少

## 2 県税収入は個人所得の減少により個人県民税が減収になるなど、3年連続で減収になった。

- 個人所得の減少により個人県民税が減収になるなど、県税全体で336億円(5.0%)減少
- 平成20年度以後、3年連続で減収
- 歳入総額に占める県税収入の割合は、37.9%で0.5ポイント低下

## 3 県債発行額は5年ぶりに前年度を下回った。 県でコントロールできる県債残高は8年連続で減少した。

- 臨時財政対策債の発行額は増加したが、県債全体の発行額は207億円(6.0%)減少  
県債が歳入に占める割合は、19.1%で0.5ポイント低下
- 平成22年度末の県債残高は、3兆3,582億円で1,319億円増加  
臨時財政対策債及び減収補てん債を除いた県で発行をコントロールできる県債残高は、  
2兆3,975億円で643億円減少